

1年生、中間発表を実施

ここまでにわかったこと・今後の展望等を共有しました

グロ探通信

11号

★編集★
グロ探
通信班

清笑祭も終わり、山田高校もすっかり秋めいてきた今日この頃です。G探1・2年生の探究が佳境に入りつつある中、この日は1年生による中間発表が行われました。1年生の全3班が、これまでの活動で分かったことと、今後の方向性や展望について発表する会です。

1年生の探究のリサーチクエスト(RQ)と仮説については、左の表にまとめてありますのでご覧ください。

	リサーチクエスト	仮説
A班	使い終えたチョークとAIの活用で、実用的な再生チョークを作ることができるのか	プログラミングを使えばチョークの水平リサイクルが簡単にできるのではないか
B班	簡単に手に入る材料を使い、子どもでも簡単にできる新しい知育菓子を開発することができるのか	火を使わない(=レンジ加熱のみ)・加えるのは水だけ、という条件で、新しい知育菓子を作ることができるのではないか
C班	防災意識を持ち、災害時に地域や人の役に立てる山高生になるには？	1,防災クイズを実施したら知識が増えるのでは。 2,知識→アウトプットの過程で意識があがるのでは。 3,これまでのことを踏まえて模擬避難所運営をすれば、実際の災害時でも避難所で役に立てるようになるのでは。

(参考) 1年生の探究 RQ と仮説の一覧

トップバッターはC班の4名(朝倉翠さん・谷まゆみさん・松浦岳飛くん・松永真衣香さん)です。C班は高知県の高校生津波サミットにも参加しており、活動の幅がとて広い班です。中間発表では、自作の「防災クイズ」を校内に掲示した活動の紹介や、3月の避難訓練を総務部の先生と共に主催すること、また避難所運営実験に関するスケジュールなどが

示されました。

次はA班。織田せんさん・大和穂香さんの2名です。A班は高知工科大学の新田紀子先生のご協力のもと、粉末状のチョークに水を加えてチョークを成型した活動や、顕微鏡を用いた比較画像などを説明。今後は、短くなって使えなくなったチョークを粉末にしてリサイクルすること、プログラミングでロボットアームを動かし、チョークの色の選別を自動でできるように調整したいという展望を語っていました。

最後の発表はB班の3名(井上ほのみさん・徳弘

生徒の感想

A班 大和穂香さん

(香北中出身)

航大くん・三谷芽生さん)です。知育菓子を販売している「クラシエフーズ」の方に質問をしたことや、3度の実験の様子と結果を紹介しました。今後は、子どもたち実際に作ってもらおう実験まで行えたらと考えているとのこと。

3班とも夏休み以降の活動内容を詳しく報告して、とても良かったです。私は他班の発表を聞いて、少し焦りを感じました。まだ発表に慣れていないという部分もあるのですが、私の場合はよく言葉に詰まってしまうようです。これからは自分たちの探究は引き続き行いながら、たくさん人の前で発表をするということ自体にも慣れていきたいです。

B班 井上ほのみさん

(鏡野中出身)

スライドづくりの時間をかけすぎて発表練習の時間が取れず、打ち合

わせが直前になったので、次からはスライドを早めに仕上げ、本番前の1時間を発表練習にすべて使うくらいにしたいです。アンケート評価ではスライドの改善や場を巻き込む表現などの改善点を教えてもらったので、練習をして身に付けていきたいです。

C班 朝倉翠さん

(香北中出身)

他班の発表を聞いて、各班とも自分たちで設定したゴールが見えてきているように感じましたし、自分たちにはまだ行動が足りていないな、とも思いました。今考えている行動計画をしっかりこなしていこうという意欲がさらに湧いてきました。これからも頑張っていきたいと思います。



残り時間も少なくなってきましたが、それぞれの班が充実した探究を行えるようにサポートを続けていきたいと思えます。